

第40号 平成27年3月31日発行
編集局 JA山口中央会



集落営農法人だより

平成 26 年度「視察研修」実施

3月16日（月）～17日（火）、県下集落営農法人が抱える共通的な課題である「人材の確保・育成」に向けて、法人の少量多品目生産の可能性や、需要の高まりをみせているカット野菜等への生産体制など先駆的な取り組みを進めている県外事例について学ぶため、愛媛県にて視察研修を実施しました。

視察先

- ① JAおちいまばり直売所 さいさいきて屋（愛媛県今治市）
- ② (株)サンライズ西条加工センター（愛媛県西条市）

視察先①：JAおちいまばり直売所 「さいさいきて屋」

“常に熱い思いでいろいろな事に取り組むこと” しかない！

この言葉は、視察研修のご対応をいただいた、さいさいきて屋のしかけ役である、JAおちいまばり 直販開発室 西坂文秀 室長の言葉です。

JAおちいまばりは、平成9年に今治市と越智群内にある14のJAが合併してできました。合併と言っても地域性はさまざまで、しまなみ海道沿いの島嶼部にあった8つのJAと山間部のJAを含めての広域合併でした。管内の農家は兼業農家率が高く、1戸あたりの耕作面積が小さいのが特徴でした。このような状況下で、高齢者や女性であっても小さな規模の農業を営んでいました。少量からでも販売することを可能にし、島嶼部を含む中山間地域の農業の活性化につながればという西坂室長の熱い思いで、さいさいきて屋は開店したそうです。



JAおちいまばり 西坂室長

【さいさいきて屋 概要】

JAおちいまばりの運営する大型直売施設。直売所だけでなく、新技術・新品種実証農園、体験型市民農園、学童農園、地産地消レストラン、加工施設、地産地消研修施設、クッキングスタジオの7つの施設が併設されている。

直売所では地産地消にこだわっており、すべて今治産である。売り物はもちろん、食堂やカフェの材料もすべて「さいさいきて屋」の食材でまかなわれている。

「さいさいきて屋」は、JAおちいまばり農畜産物展示直売事業として行われるもので、その事業のコンセプト・目標は、以下のとおりです。

【事業のコンセプト・目標】～地産地消の地域農業振興の拠点づくりを目指して～

輸入農畜産物の不信感が高まっていく中で、新鮮で安心安全な地元の食料を継続的に供給することは、地産地消による消費者のニーズに応えることであり、そのことが地域農産物の生産・消費拡大、ひいては農家の農業所得の増大・確保へとつながる。

こうした事業を継続的に発展させるためには、生産者と消費者の物理的・心理的な距離を縮め、お互いの「顔の見える関係」の中で、産消提携を進めていかなければならない。

このため、JAおちいまばりは、「生産と販売」、「実証と技術指導」、「生産者と消費者」、「体験と購買」、「加工と調理」を一堂に会した地産地消型地域農業振興拠点を整備し地産地消の推進、地域農業の振興、農業の担い手の育成、消費者理解の促進及び安心・安全な食料の安定供給を実現するとともに、農家所得の向上を目的とする。



研修風景



「さいさいきて屋」店舗内風景



熱心に視察する参加者

【事業の内容】

平成12年の開店当初は、30坪あまりの小さな店舗からのスタート。当時の出荷農家数は90人。それから売上を順調に伸ばし、3年目には100坪の店舗へ、さらに売上は伸び続け、5年目には出荷会員農家800人、売上8億円を上げる事業へと成長した。

西坂室長は、「会員農家にとって、経験したことのない、“作る農業”から“作って売る農業”への転換・挑戦であったと思う」と当時を振り返られました。

「さいさいきて屋」の日常には、西坂室長の思いがあふれていました。

- 売れ残った野菜は生産者が持ち帰る。⇒生産に責任を持つ。
- 売れ残ったよい品物は「さいさいきて屋」が買い取る。⇒生産の励みに。
- 学校給食への取り組みとして、学校給食会に年間にとれる農産物と量を提示し、それでメニューを考えるよう提案。⇒地産地消の取り組み。

また、西坂室長は、「失敗しない方法」について話されました。

「失敗しない方法とは、成功するまで続けること」

簡単におっしゃっているようで、しかしそれはとても難しいことです。

成功するまで続けることができたのは、努力も大きいに違いありませんが、「今治産」や「地域農業振興拠点」というゆるぎない思いがあっこそ、続けることができたのではないかと感じました。

視察先②：(株)サンライズ西条加工センター

(株)サンライズ西条加工センターは、平成26年2月、愛媛県西条市に立地する(株)高瀬運送・JA西条・(株)西条産業情報支援センター・伊予銀行・ヤマエ久野(株)(大手食品卸)・住友化学(株)の共同出資により設立されました。サンライズ西条加工センターは、「未来都市モデルプロジェクト～西条農業革新都市～」における取り組み主体の1つとして、農業者と有機的に連携し、消費者の多種多様なニーズに合わせたパッケージ・カット野菜を製造・販売を目指しています。



研修風景



(株)サンライズ西条加工センター (たまねぎ加工風景)

まだ取り組みが始まったばかりですが、サンライズファーム西条（※）、地元農家・西条市等の産地一体型の加工センターを目指しており、事業拡大に合わせ、地元行政との協同による産地化促進の取り組みを展開することで、良質な野菜を安定的に供給する体制を整えています。

また、四国の主要都市をはじめ、中国地方の主要都市である広島市や岡山市も配送リードタイム2時間圏内に位置し、その圏内の人口700万人をターゲットとして、カット野菜の市場規模としては約70億円が試算されているそうです。

※サンライズファーム西条は、農産物の栽培及び販売や、サンライズ西条加工センターへの農産物の原料供給を行っている。地元企業と連携したパッキング作業や、パソコンによる栽培、収穫、出荷の情報管理を行っており、規格の統一化とブランド化を行っている。水稻、レタス等の栽培に取り組むほか、地元高校生のインターンシップの受入等も行っておられるとのことでした。

“農業を成長産業に”

“農業の可能性を探る”

ともにサンライズ西条での視察研修のキーワードです。

山口県ではどんなことができるか、山口県集落営農法人連携協議会として力を結集し、山口県の農業振興について、たとえ少しずつでもみなさんといっしょに取り組んでいきたい、との思いを新たにする研修となりました。



サンライズファーム西条の農場にて